



## J35J DRAKEN "ESPADA"

Sapin Air Force / 9th Air and Land Division / 11th Tactical Fighter Squadron  
"ESPADA"

© BANDAI NAMCO Entertainment Inc.

# J35J DRAKEN "ACE COMBAT ESPADA"

SP340 | 1:72 J35J ドラケン “エースコンバット エスパダ隊”

### エスパダ隊について

#### ●エスパダ1

アルベルト・ロベス。現役時代32歳。階級は大尉。機体番号は「506」  
サピン空軍でも異色な傭兵部隊のエース。  
重々しくも力強い威圧感のある機動から「灼熱の荒牛」と呼ばれ恐れられた。  
TACネームは闘牛士を意味する「Torero」。  
ベルカ戦争においては連合軍の一員としてベルカ南部ハードリアン線攻防等、各地で多大な戦果をあげる。  
しかし、ベルカ戦争中期に連合軍の共同作戦によりオーストラリア軍と接触する機会が増え、オーストラリア軍大尉プリストーと意気投合。プリストーの唱える「理想の軍隊」作りと同調し、協力するようになる。  
ベルカ戦争終結後の1995年10月、僚機とともに傭兵基地から姿を消す。  
1995年12月25日、クーデター軍「国境無き世界」に参加し、ベルカの超兵器「重巡航管制機 XB-0 フレスベルク」護衛として停戦条約締結の都市ルーメンとウスティオ共和国ヴァレー空軍基地の空爆に参加。壊滅的な被害を与える。しかし、その後空爆の中、緊急発進し追撃して来たヴァレー空軍基地所属ウスティオ空軍第6航空師団第66飛行隊「ガルム隊」と交戦し撃墜された。  
以後は消息不明。

#### ●エスパダ2

マルセラ・バスケス。現役時代27歳。階級は中尉。TACネームは「Macarena」  
機体番号は「507」  
1970年、サピン王国グラン・ルギドに生まれる。戦争で両親を失い、その報復から傭兵部隊に志願。そこで「灼熱の荒牛」と呼ばれる傭兵、アルベルト・ロベスに出会う。威圧感のある機動の荒牛に対し、その周りを軽やかにサポートする機動は、まるでダンスを踊っているかのように見えたといわれる。  
ベルカ戦争においては、荒牛とともに各地で多大な戦果をあげる。その頃から戦争の意義も、報復から、荒牛との行動へと変わっていく。  
ベルカ戦争終結後の1995年10月、オーストラリア軍大尉プリストーと意気投合し同調した荒牛に寄り添う形で、傭兵基地から姿を消す。  
1995年12月25日、クーデター軍「国境無き世界」に参加し、ベルカの超兵器「重巡航管制機 XB-0 フレスベルク」護衛として停戦条約締結の都市ルーメンとウスティオ共和国ヴァレー空軍基地の空爆に参加。しかし、その後空爆の中緊急発進し追撃して来たヴァレー空軍基地所属ウスティオ空軍第6航空師団第66飛行隊「ガルム隊」と交戦し、荒牛ともども撃墜された。  
結果的に一人残された彼女は、そのまま生まれ故郷であるサピンのグラン・ルギドに戻り、バーのダンサーとして生計を立てている。

### 実機解説

1949年スウェーデン空軍は新型戦闘機の開発をサーブ社に要求しました。その仕様は上昇限度14,000m、上昇時間は高度10,000mまで25分、最大速度はマッハ1.4から1.5、高速道路への離着陸を想定したSTOL性能などで、1949年当時としては非常に進歩的な機体でした。当時スウェーデン空軍は仮想敵国が高音速ジェット爆撃機の実用化を予想していたので、これに対抗する迎撃戦闘機のドラケンは超音速戦闘機として開発されなければなりません。アメリカのベルX-1がマッハ1を突破したのが1947年でしたがサーブ社としてはかなり未知の部分も開発に盛り込まなければならぬという厳しい状態でした。この要求を受けたサーブ社はダブルデルタ翼の採用を決定したサーブ210という研究機を製作し、1951年から1954年にかけて500回以上の実験飛行を重ね、数々のデータを獲得してダブルデルタ翼の独特の形態をしたサーブ35ドラケンを完成させ、初飛行は1955年10月25日に行なわれました。結果はきわめて良好で、1956年1月26日にはアフターバーナーを使わず初めて音速を超え、その2ヶ月後には上昇中の音速突破にも成功しています。1956年の8月に量産型のJ35Aがサーブ社に発注されました。1958年2月15日に初飛行したJ35Aは1959年末からスウェーデン空軍に納入が開始されています。サーブ35ドラケンは当時の技術的には特に斬新なものではなくポピュラーな機体構造でしたが、機体をモジュラー構成してあり、外翼は簡単に取り外しができ、機体幅を短縮し輸送の利便性を考慮しています。搭載するエンジンはイギリス製のロールス・ロイスエボンのライセンス生産でRM5A、RM6B、RM6Cのシリーズを使用しています。アフターバーナーはスウェーデン製のアフターバーナーで前期型がモデル65、後期型がモデル66を装備しています。このアフターバーナーの装備により、RM6Cエンジンは、本来イギリスのエイボン300を上回る推力を得ています。ドラケンの各型は、初量産型のJ35A(Adamアダム)で63号

機から0.8m延長されたアフターバーナーモデル66を使用しているため後部胴体が0.8m延長され、後のシリーズの標準寸法になっています。J35B(Bertベルティル)は実質的な実用型で1959年11月29日に初飛行し、FCSが強化され、サイドワインダーのほか75mm空対空無誘導ロケット弾ポッドを搭載できるようになりました。J35D(Davidダビッド)は1960年12月に初飛行し、エンジンをRM6Cに換装、最大速度がマッハ2.0以上に向上しています。J35F(Fredフィリップ)は第2世代のドラケんで、外観に大きな変更はありませんが内部構造を改良しています。それまでドライドットだった主翼外翼にも燃料タンクを増設。J35Aが2,240リットルだったのが4,000リットルに増加しています。また、J35F以前の装備が昼間迎撃システムでしたが、J35Fではレーダー誘導ミサイル装備ができるようになり完全な全天候迎撃戦闘機になりました。J35Fに近代化改修を行った機体がJ35J(Johannヨハン)でレーダー、赤外線装置の改良がなされ、さらに内翼両側下面にパイロンを増設し、ミサイル4発と増槽タンク2本を同時に搭載できるようになりました。この他のタイプには、練習機のタンデム複座型Sk35C(Cäsarケーザル)と写真偵察型のS35E(Erikエリック)がありました。  
(J35Jデータ)乗員:1名、全幅:9.4m、全長:15.35m、全高:3.89m、翼面積:49.2㎡、最大離陸重量:12,270kg、エンジン、ボルボ・フリックモートルRM6C、推力:5,800kg(AB使用時:8,000kg)、最大速度:マッハ2.0/12,200m(外部武装なし)、固定武装:30mmアデン機関砲x1、初飛行:1961年初め

※この商品の設定はフィクションであり、実在の国、地域、人物、企業、団体、事件とは一切関係ありません。

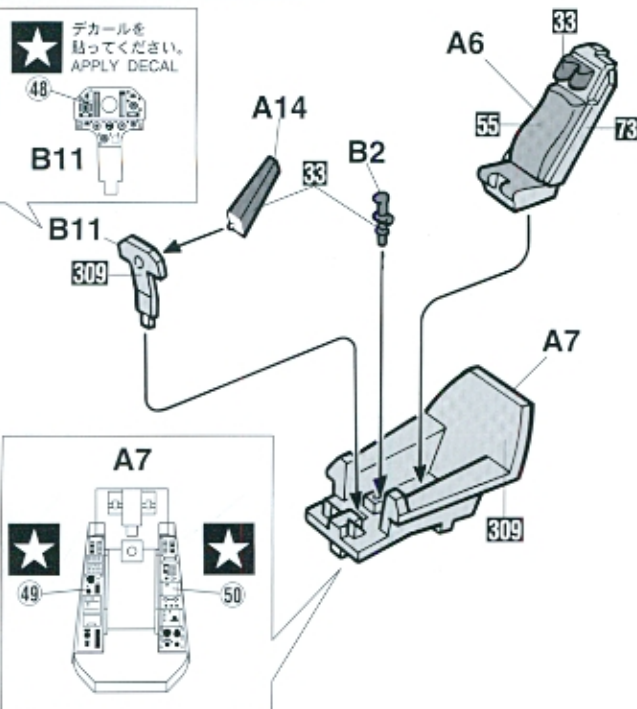
※The story and events depicted in this work are fiction. Any resemblance to actual political states, geographic locations, persons, living or dead, corporations and organizations is purely coincidental.



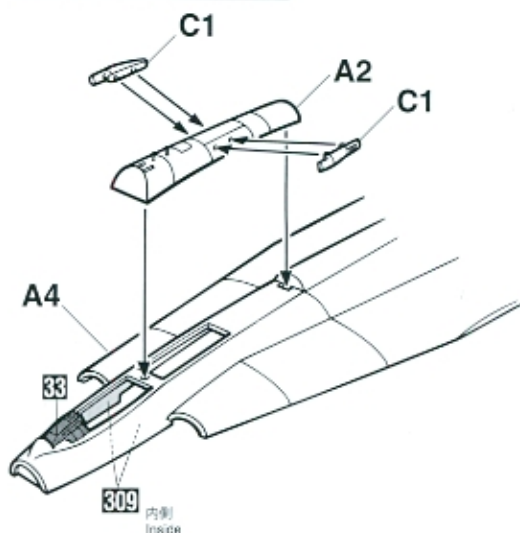
- |   |   |  |   |  |   |
|---|---|--|---|--|---|
| ★<br>デカールをはってください。<br>APPLY DECAL<br>HIEAR ABZIEHBILD<br>APPLIQUER DECALCOMANIE | APPLICARE DECALCOMANIE<br>PONER CALCOMANIA<br>貼上米印紙 | 9<br>オモリを入れてください。<br>INSERT BALLAST<br>BALLAST ZUGEBEN<br>A LESTER | AGGIUNGERE ZAVORRA<br>LASTRAR<br>放入壓積物  | ☐<br>穴をあけてください。<br>OPEN HOLE<br>ÖFFNEN<br>FAIRE UN TROU          | FORO APERTO<br>HACER AGUJERO<br>鑽孔        |
| ↔<br>どちらかを選んでください。<br>OPTIONAL<br>NACH BELIEBEN<br>FACULTATIF                   | FACOLTATIVO<br>OPCIONAL<br>可以选择採用                   | ☐<br>穴をうめてください。<br>FILL HOLE<br>SCHLIESSEN<br>BOUCHER LE TROU      | FORO PIENO<br>EMPLJE EL AGUJERO<br>把孔填平 | ⚠<br>注意してください。<br>BE CAREFUL<br>HIER VORSICHT<br>FAIRE ATTENTION | USARE ATTENZIONE<br>TENER CUIDADO<br>小心留意 |

このキットに接着剤及び塗料は含まれておりません、プラスチックモデル専用の物を別にお求め下さい。 Kit does not include paint and cement

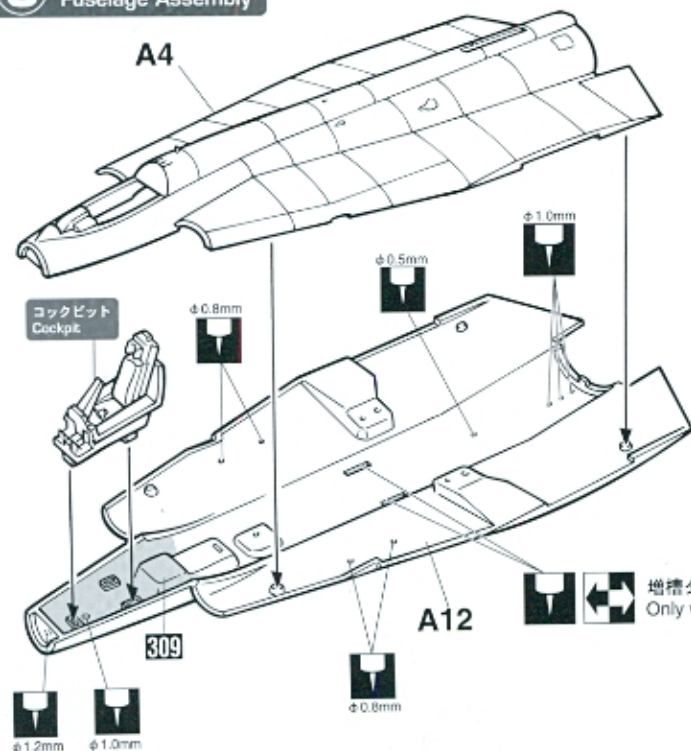
## 1 コックピットの組み立て Cockpit Assembly



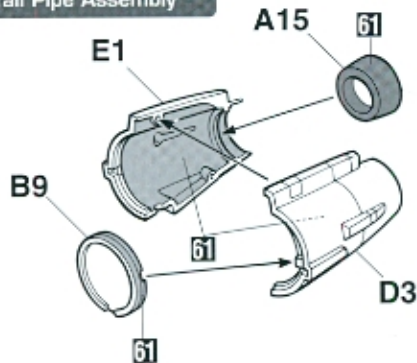
## 2 胴体の組み立て Fuselage Assembly



## 3 胴体の組み立て Fuselage Assembly

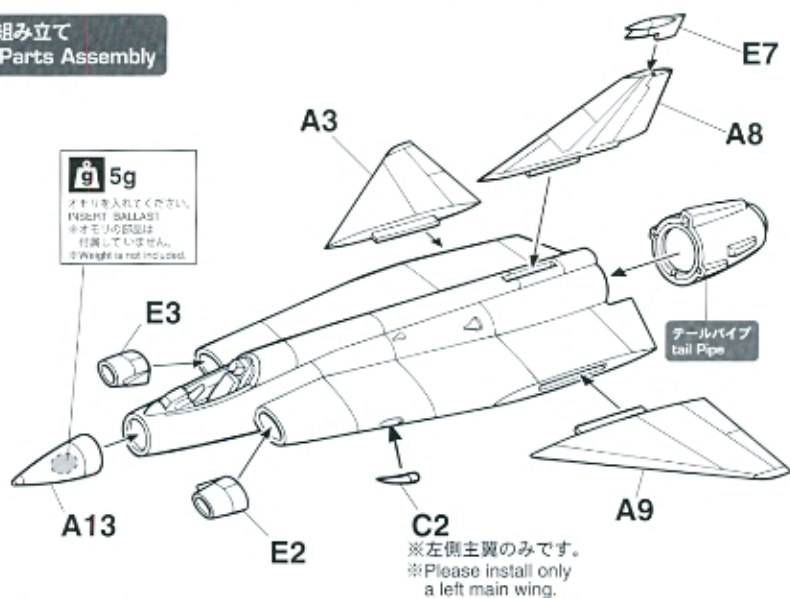


## 4 テールパイプの組み立て Tail Pipe Assembly

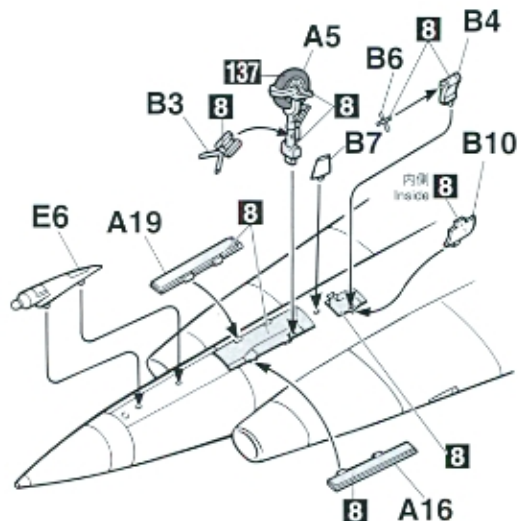


増槽タンクを取り付ける場合のみ。  
Only when you install the auxiliary fuel tank.

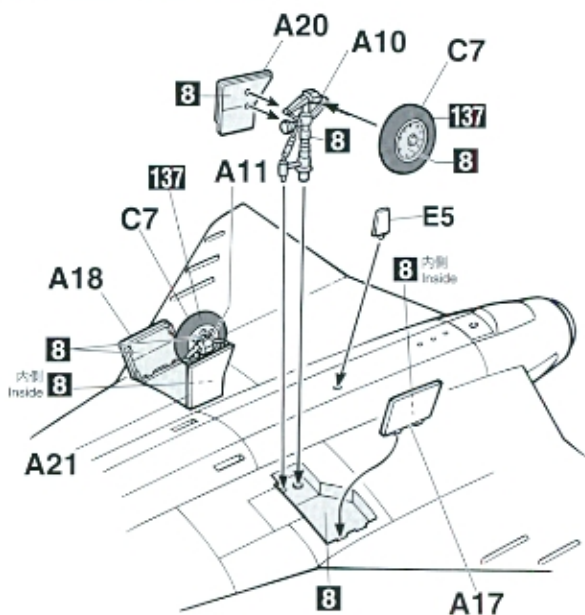
## 5 各部分の組み立て Various Parts Assembly



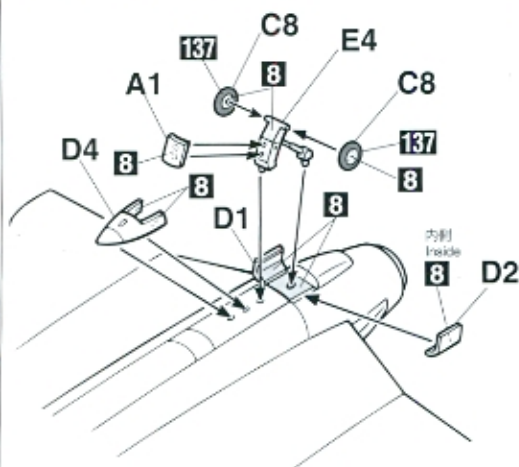
## 6 前脚の組み立て Nose Gear Assembly



## 7 主脚の組み立て Main Gear Assembly



## 8 尾輪の組み立て Tail Wheel Assembly

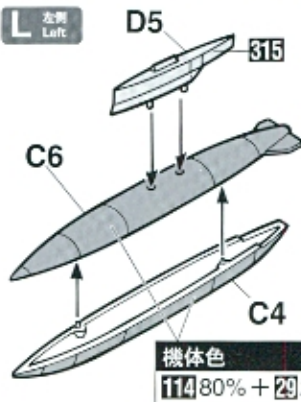


## 9 増槽の組み立て Auxiliary Fuel Tank Assembly

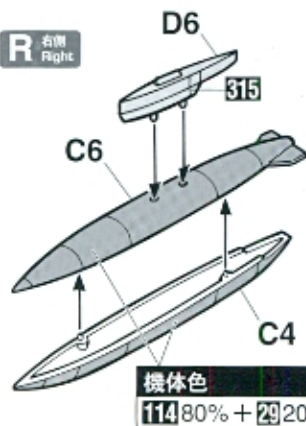


増槽タンクを取り付ける場合のみ。  
 Only when you install the auxiliary fuel tank.

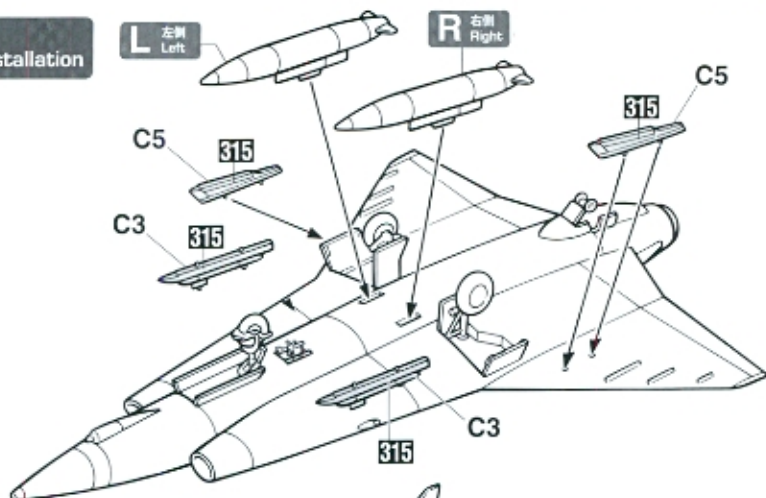
**L** 左側  
Left



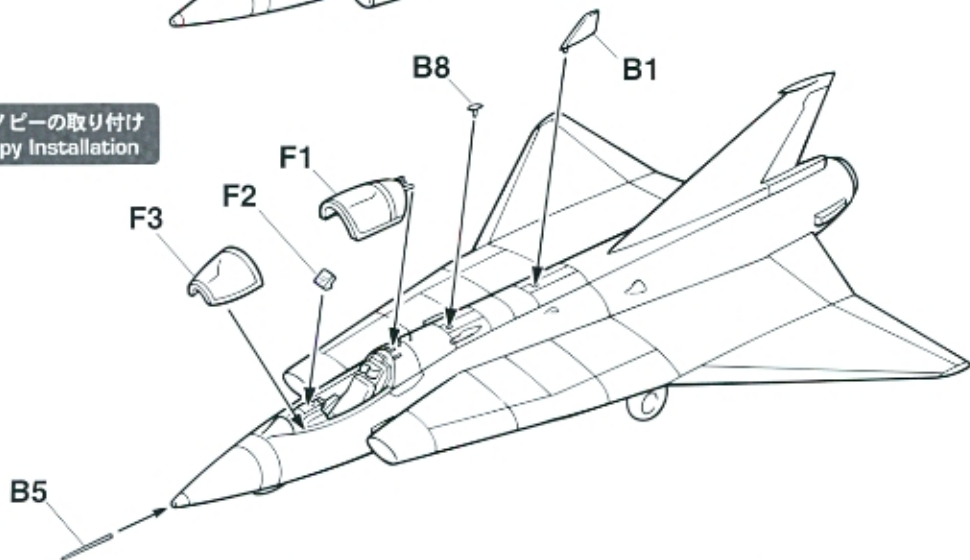
**R** 右側  
Right



**10** 増槽の取り付け  
Auxiliary Fuel Tank Installation



**11** キャンピの取り付け  
Canopy Installation

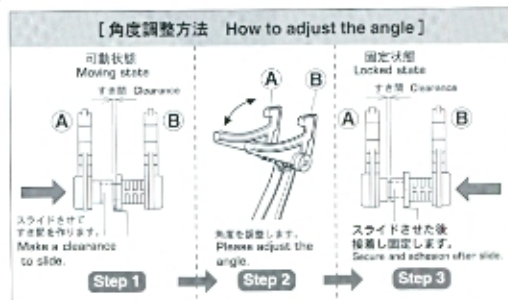
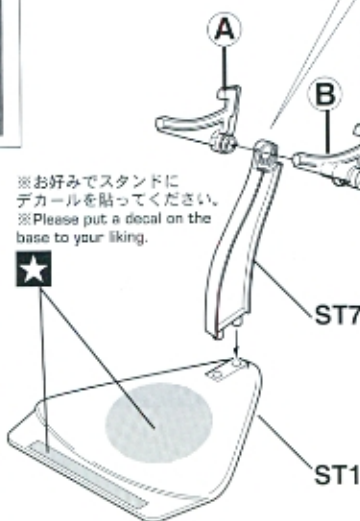
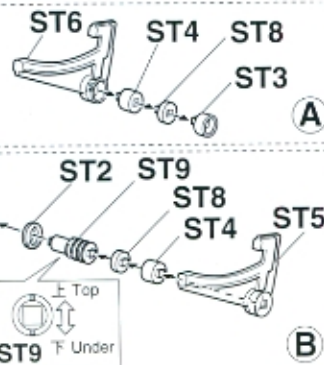
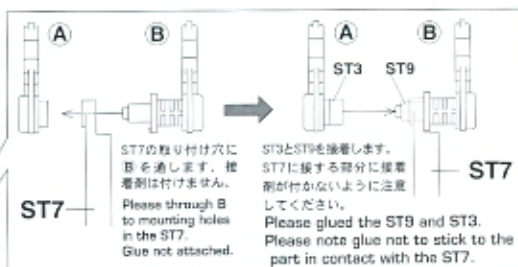


◆ スタンドの組み立て  
◆ Display Stand Assembly

▲ 角度を決定した後は、必ずしっかり接着し固定してください。  
Please glued, after you decide the angle.

※このスタンドの組み立てはJ35Jに対応したものです。  
※Assembly of this stand J35J only.

使用位置写真  
Reference photo of use position



# Marking and Painting

■ サギン空軍 第9航空陸戦旅団 第11戦闘飛行隊 エスパダ隊 1番機 TACネーム「トレーロ」ア  
■ Sapin Air Force 9th Air and Land Division 11th Tactical Fighter Squadron ESPADA Captain

マーキング及び塗装図

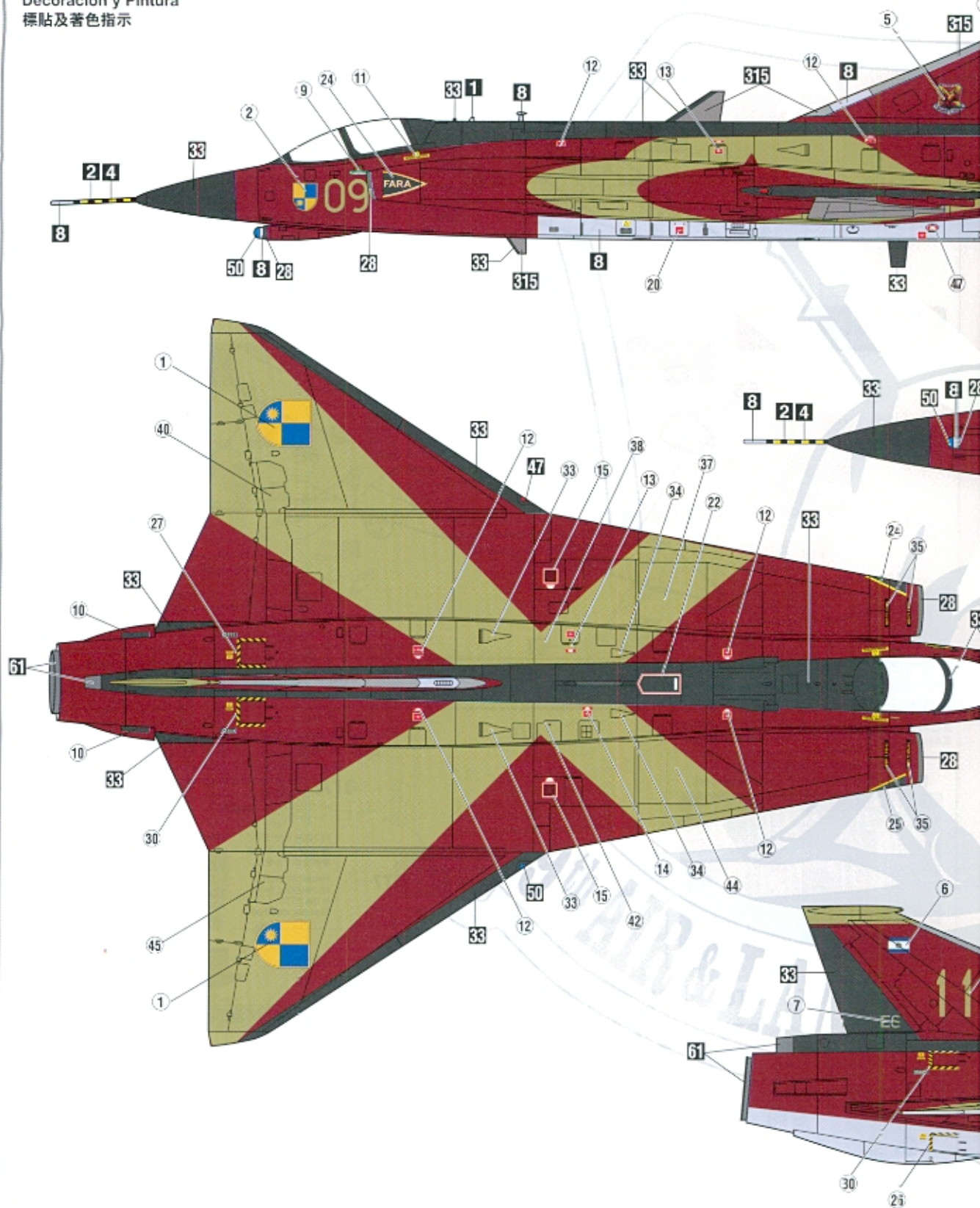
Markierungen und Bemalung

Decoración et Peinture




Marchio & Pittura

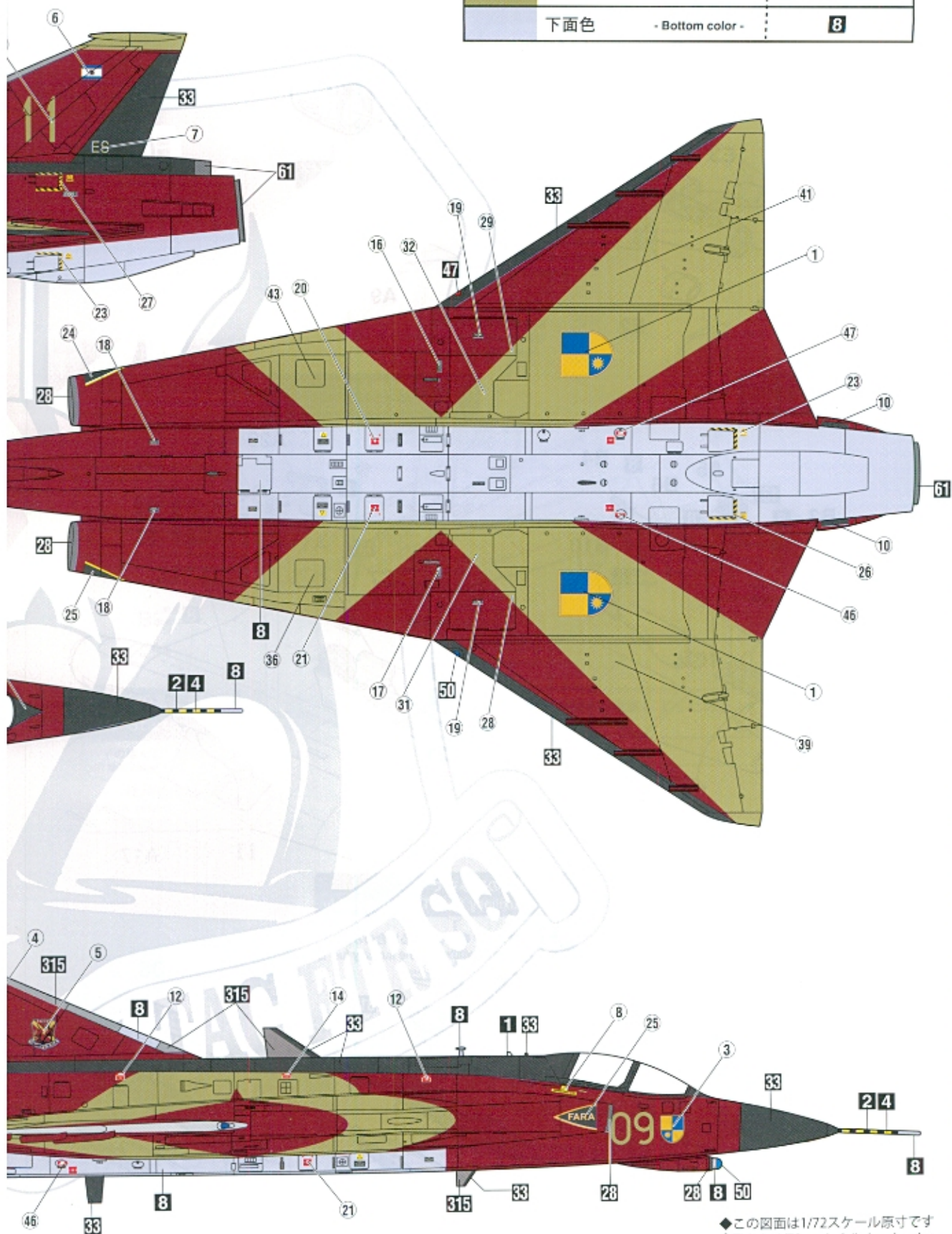
Decoración y Pintura

標貼及着色指示



ベルト・ロベズ大尉乗機  
 AC name "Torero" Alberto Lopez

	機体色 -Fuselage color-	114 80% + 29 20%
	ストライプ -Strip-	27 80% + 26 20%
	下面色 -Bottom color-	8



◆この図面は1/72スケール原寸です  
 ◆This is 1/72 scale full size drawing.



◆ベルカ空軍第5航空団第23戦術飛行隊「ゲルブ」

1995年4月まで優勢を保ったベルカ南部の防衛隊であったが、4月23日から始まる連合軍の大攻勢を前に、その勢力を弱めていくことになった。第23戦術飛行隊所属のゲルブ隊は、初期の優勢に寄与した航空部隊として知られている。ゲルブ隊は二人のエースパイロット、オルベルト・イエーガーとライナー・アルトマンによって構成されていた。イエーガーとアルトマンは古くからペアを組んでおり、互いの能力を引き出す形での優れた連携によって、南部戦線でのスコアを叩き出している。2機の編隊構成は当時のベルカ空軍中においては非常に珍しいものではあったが、これは彼らの連携による効果で、通常の編隊構成による小隊の戦力を大きく上回っていたことをベルカ空軍が客観的に受け止めていたこと、空軍組織が特殊な構成を受け入れることのできる柔軟性を備えていた為にも他ならない。

強固な制空権を築いていた東部戦線に対し、南部戦線においては状況は流動的であり、1995年4月23日の連合軍攻勢作戦の実施によって連合軍側の優勢が顕著なまでに、均衡状態が崩壊していた。その中でゲルブ隊の打ち出した成果は極めて大きなものであったが、その実は無理な兵站運用に支えられたものであった、というも、南部戦線においては戦線を一気に拡大しすぎてし

まった被害がベルカ戦争の中期以降は表裏化し、多くの戦線に及び兵站補給が弱まっていたのである。伸び切ってしまった背後連絡線は種々かつ途切れることが多く、戦線維持に十分な戦力を確保することが非常に困難であった。ゲルブ隊はベルカ中部のティオンビル基地に配備されていたが、撤退を維持する為に日に5回もの警報を繰り返すことになったという。この自衛隊非協力的な運用は、ベルカの南部戦線が攻勢から防衛へと転移することで忙しみがかる。一方その中でもゲルブ隊のイエーガーとアルトマンは着実にスコアを伸ばした。言い換えれば彩られたエースパイロットを多く輩出した東部戦線に比較して、南部戦線は一種地味な印象を抱かせるが、その実はこのゲルブ隊のような泥臭いパイロット達によって支えられていたのである。東部戦線と南部戦線のスコアを両列に扱えること自体に弊害があるのかもしれない。

最い南部戦線に自身を置き、頑張り白人部隊を繰り返すことで、結果エースパイロットの列に加わるようになったイエーガーとアルトマンであったが、やがて彼らにも最期の出撃が訪れることになる。1995年6月13日、ウスティオ首都解放阻止の任を受け、ディレクタスの空に向かったゲルブ隊は、ディレクタス郊外でウスティオ航空部隊との空中戦を繰り返す。その結果、イエーガーは戦死、アルトマンは墜落後に近隣住民の親子に助けられ、一命を取りとめる。その後アルトマンはベルカに戻ることなくディレクタスに残り続け、文筆家として生計を立てる。そして、入隊時から趣味で書いていた戦記小説がベストセラーとなり、現在は執筆を執筆中である。

[Published in BELKA, July 3 2005 BELKAN AIR POWER 第一戦前編より]

Call Gelb 1

Name Orbert Jager

オルベルト・イエーガー

Note 95.05.13 「コンスタンティーン作戦」にて戦死  
ベルカ南部防衛線、ハードリアン線に於き、迎撃を主とする部隊の長を務める。特殊機動を駆使した空戦術を武器とし、南部戦線の要として各方面で活躍した。機体番号は「115」



No.085

Call Gelb 2

Name Rainer "CORMORANT" Altman

ライナー・アルトマン

Note 95.05.13 「コンスタンティーン作戦」にて降参  
首都解放阻止の任を受け、ディレクタスへ向かう。作戦進行中にウスティオ輸兵部隊と交戦、撃墜される。戦後ディレクタスで結婚、現在は文筆家となる。機体番号は「176」



No.084



◆ベルカ空軍第51航空団第126戦術飛行隊「シルバー」

戦史について少しでも語ったことのある者ならば、シルバー隊の優れた戦術について興味をそそられない者はいないであろう。また、その列伝が隊長であるところのディトリッヒ・ケラーマンの技術と人格、そしてエースとしての風格によるものが大きいことの見解に疑いを持たないはずだ。それほどまでにシルバー隊はベルカ空軍の歴史を語るには切り離せないほど重要な存在なのである。ケラーマンはベルカ空軍への入隊は古く1973年に遡る。当時、連邦制以前のベルカは軍事的な拡大政策を推し進め、空軍においてはその基幹となる組織再編が頻りに行われていた。このような時期に空軍へと足を踏み入れたケラーマンであったが、その活躍の場が訪れるには時間を要しなかった。ベルカは東方諸国を軍事的圧力によって自らの政權下におさめ、一方で、国境付近では互いの民族主義を掲げた紛争が頻発していた。その時期にケラーマンは戦地へと送り込まれた。彼が所属したのが第51航空団第109戦術飛行隊であり、これが後に言う第一期シルバー隊である。

第一期シルバー隊はレクタ戦争における雄として結果的に名を残すことになる。ベルカ空軍と交戦をかけたレクタの航空機部隊は物量においては周辺国に遅れを取っていたものの、録音においては高く保たれており、ベルカ空軍には得たの知れないプレッシャーに悩まされることになる。一時は先の見えない消耗戦にもつれ込むかと思われたが、その状況を打開したのがシルバー隊であった。ケラーマン率いる部隊は、レクタ側に主導権が傾いていたマインツ山地を中心に設定された空域の制空権を一気に奪い返した。制空権の奪取はベルカ地上部隊の機動を促進させることとなり、レクタの開放戦線が息を揃えるコールドへの進行を確実なものとする結果となる。シルバー隊の戦術の背後にあったのは、隊長であるケラーマンの的確な指揮であった。彼はこれ以上ないほどの明確かつ簡潔な指示によって、時には犠牲を惜めず、時には編隊に振り回される危険を事前に察知したと言われている。また、彼が1995年にベルカ北方のクレ

センス島の沖合いで発生した所謂不明機こよる怪空軍事件(ヴェーレ事件)の際にも、当時北方に展開していたシルバー隊がスクランブル発進し、不明機との交戦状態に入した後、撃墜した記録が残っている。

その働きからマインツの英雄とも呼ばれることになったケラーマンは、その教育者としての資質を買われ、1990年に最終線から身を引く決断をする。以降、ケラーマン不在の1990年から1995年までの第109戦術飛行隊が第二期シルバー隊と呼ばれる。所謂パイロットは隊長であり恩師であったケラーマンの教えを忠実に遂行し、アグレッション部隊を相手にした演習に際しても常に高い成績を残している。身を引いたケラーマンは、当時の上司であったハインリッヒ・ランド少将の強力な推薦もあって、空軍アカデミーの飛行教官として若手パイロットの育成に一旦は自らを捧げることとなる。しかし、その教官生活は長くは続かなかった。1995年のベルカ戦争の開幕は若手ケラーマンを再び戦線へと呼び戻すことになるのである。

開戦初期の優勢を維持できず、各地で戦線が縮み始めた頃、空軍上層部は前線の士気向上を目的としてケラーマンを送り込むことを決定した。しかし第二期のシルバー隊のメンバーはそのほとんどが戦死・もしくは負傷していた為、空軍は彼の部下としてまだ訓練が足りなかったばかりの後の生徒達、アカデミー新特異部隊、通称「ケラーマン教官」のパイロットを考えたのであった。これが、悲劇の序幕とも言われる第三期シルバー隊の発足である。そして、同年5月28日、ウスティオ国境空域において発生した連合軍との大規模空中戦において、隊長ケラーマンを残して(彼は撃墜されるも命を取り留めた)全機捕獲・撃墜され死亡する。録音は必ずしも低くなかったシルバー隊を壊滅させたのは、ウスティオ空軍に所属する輸兵部隊であるとの見方が現在も強い。その後、やがてベルカ戦争は終結するが、彼は終戦まで戦線最前線となるものの、軽い別が与えられるのみとなった。その育後には、当時空軍の組織改革を急務として推し進めるオアシス空軍が、彼を指導者として呼び寄せようとした意図が存在していた。だが、ケラーマンはその誘いを拒んだ。彼はその後、是道の日々を送っているとされている。

[Published in BELKA, July 3 2005 BELKAN AIR POWER 第一部後編より]

Call Silber 1

Name Dietrich "BOSS" Kellerman

ディトリッヒ・ケラーマン

Note 95.05.28 「バトルアクス作戦」にて降参  
70年代にベルカ空軍入隊。「銀色のイヌワシ」として活躍。90年代に退役するも、ベルカ戦争勃発で再度空軍に復帰。95年5月28日 07時に於き戦死、再度退役。現在は片岡田に隠居。機体番号は「071」



No.083

Call Silber 2

Name Rupert Appling

ルーベルト・アップリング

Note 95.05.28 「バトルアクス作戦」にて降参  
B7R空戦に於き撃墜、一命は取り留めたものの、ウスティオ領内に不時着、捕虜となる。その後テッセル島収容所に送還、終戦まで過ごす。現在はベルカに戻り、一般市民として生活する。機体番号は「653」



No.084

Call Silber 3

Name Stefan Enders

ステファン・エンダース

Note 95.05.28 「バトルアクス作戦」にて戦死  
B7Rに於き撃墜、機体は山岳部に墜落、爆発炎上した。機体損傷が激しく、幸うして残った機体製造番号で本人を特定、遺体は本国の道徳に返還された。機体番号は「487」



No.085

Call Silber 4

Name Sven Butlag

スヴェン・ブルトラグ

Note 95.05.28 「バトルアクス作戦」にて行方不明  
B7R空戦に参加、作戦中に消息が途絶える。確認されている最終無線記録には、攻撃状況を報告する声が聴けていたが、ノイズが強く詳細の解析は不可能。その後の捜索記録は無し。機体番号は「561」



No.086

Call Silber 5

Name Sebastian Hackenberg

セバスチャン・ハッケンバーグ

Note 95.05.28 「バトルアクス作戦」にて戦死  
02偵察機部隊よりシルバー隊へ異動したが、B7R空戦にて撃墜される。元々身寄りがなかった為、亡骸は戦死者共同墓地に埋葬された。遺言により、資産の全ては戦争孤児基金に預けられている。機体番号は「396」



No.087

◆各機体の機体番号設定は今回初出となる。  
◆Aircraft number setting of each aircraft will be this first appearance.





ESPAÑA 31  
ES ES 506 506  
507 507  
09 09  
1111 1111  
ZERO ver1

GELB 11  
115 115  
176 176  
GELB 21  
40

071 071  
SB SB  
SB 653 SB 487 SB 551 SB 396  
SB 653 SB 487 SB 551 SB 396  
06 06  
VL VL  
32 32



ACE COMBAT ESPADA  
© BNEI  
2016.07 (GFS)  
Hobby LINE  
MADE IN JAPAN